

## トラブルを防ぐ「ニックネーム」

今朝のニュース、ある会社では社員のすべてがニックネームで仕事をしています。勿論、名刺もニックネーム！「長嶋 翔平」ご本人は草野球が趣味で大好きな長嶋茂雄さんと大谷翔平さんのお名前を拝借、ご自身をそう命名したそうです。「力 ジャイアント猪木」さんもいるかもしれませんね。

何故！？最近のSNSの誹謗中傷による社員の精神的ストレスを回避するためだそうです。社員の方々も安心してお客様対応ができると喜んでいらっしゃいました。インターネット社会ならではの発想なのでしょうか。お客様の掴みも良いでしょうね。

「ニックネーム」とは何か調べてみましたら、「愛称」と出ていました。

「あだ名」とどう違うかと思いましたが、「あだ名」にはその人の容姿や性格、特徴による別名、あざけりの意

味があるようで、他人がつけるものらしいです。

自身も振り返って思い起こせば、あまりお使いにならない方がよろしいようで。「愛称」は特に親しみを込めてよぶ呼び名のことです。なんか感じ良いですね。

「ニックネーム」上手に使ってみる！如何でしょうか？

どこかの塾ではお子様方の本名は伏せ、すべてコードネームで点数発表しているそうです。本名を知られ検索されてプライベートを詮索されるリスクを無くすためだそうです。これもネット社会の産物でしょうか。

「コードネーム」も「ニックネーム」も個人情報の保護のために使われているんですね。私は「金ちゃん！」「カネやん！」と呼ばれるとついつい「ハイハイ！」

ニコニコと返事してしまいます！！

## ～気をつけましょう！この季節～

三寒四温から、いよいよテニスシーズンの到来です。新入会員様も新入スタッフも増える春です。

新年度は基本の確認を全スタッフへ、お客様への周知も忘れずに安全管理体制を見直しましょう。

### ～スタッフ～

#### 1. 新人スタッフが増える時期です。

特に春は学生スタッフさんが増えます。

社会経験やアルバイト経験のないスタッフさんには安全危機管理の概念はありません。

まずは、テニスにおける事故の事例や可能性、それによる影響などを理解してもらい、安全管理の重要性を分かっていたくださいましょう。



安全管理マニュアルの確認など、漏れのない初期研修を実施することが大事です。

また、肉離れや捻挫などのけがへの応急処置（RICE）、またCPR（心肺蘇生）の研修を行いましょ。

加入している保険の適用範囲なども理解し、事故発生時に的確な対応、ご案内が出来るようにしましょう。

「たしかこうだった」「だと思えます」などの不正確な案内をするよりも、上位者に繋ぎ正しいご案内をすることも決め事としましょう。コーチ、フロント共に同様の対応が出来ることが重要です。

#### 2. 異動の季節です。

施設の違いなど、事業所与件による安全管理ルールの違いなどを把握しましょう。

近隣の病院の情報も確認しましょう。この機会に情報をアップデートしても良いでしょう。

避難経路や避難場所も違います。広域避難場所には一度足を運ぶなど、施設外の情報も確認しましょう。



### 3. 体調管理を徹底しましょう。

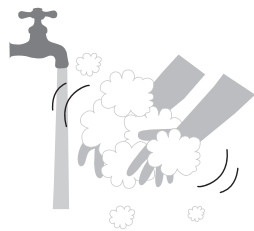
インフルエンザ、コロナ等はなくなくなったわけではありません。

また、ノロウイルスなどのウイルス性胃腸炎も流行しています。

手指消毒やうがい、手洗いは継続し習慣化しましょう。

体調に異変を感じたら速やかに検温し、発熱の場合は出勤を控える、下痢や吐き気などの場合も無理に出勤しないようにしましょう。

ウイルス性疾患は同居家族に感染しやすいので、家族の体調変化も共有しておくとういでしょう。



## ～レッスン～

### 1. 体操

レッスン前の体操をお客様がどこまで真剣にしてくださっているか。

それはコーチの体操が真剣かどうかによって比例します。

体操を担当するコーチ以外のコーチも準備等、特段の業務がなければ一緒に体操をしましょう。

お客様と会話をしたり、コミュニケーションも大事ですが、そのせいで体操が疎かになってはいけません。コーチの本気度が怪我の発生頻度に影響するということが全スタッフで共有しましょう。

また、新入会員は体操も初めてです。どの部位にどう効いているか、何を意識して動かすかなど、コーチが分かりやすく説明しながら体操をしましょう。

レッスン終了時にはまとめや連絡事項を伝えながら、整理体操（ストレッチ）を行きましょう。



### 2. 水分補給

冬場でも急に気温の上った日には熱中症に近い症状になる方も出ます。

外はまだ寒くとも、インドアコートなどは思いの外、汗を大量にかいている可能性もあります。

運動時の水分補給は季節を問わずであることを認識しましょう。

レッスン中の水分補給は「個々に摂っていただく」のではなく、ドリルの切り替え時などにコーチの指示で一斉に実施し、適正な水分補給を促しましょう。



### 3. 高齢化対策

会員層の高齢化もあり、怪我が増えています。

下肢、特にふくらはぎの肉離れは増加傾向です。特にレッスン終盤では疲労も蓄積し、怪我が増える傾向にあります。

ドリルの待機から自分の順番に入る前に、コーチからストレッチを指示しましょう。

コート脇にストレッチボードなどを設置するのも良いかもしれません。

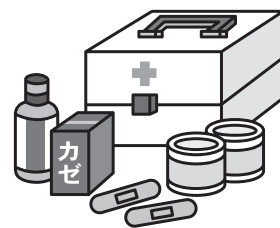
その場合、使い方ガイドの掲示も忘れないようにしましょう。



## ～その他～

### 1. 救急箱

中身のチェックをしましょう。足りないものは補充をしましょう。



### 2. AED

表示があるか、設置場所の確認、スタッフへの周知をしましょう。

パッドが期限切れでないかも確認をしましょう。

### 3. 消防設備

消火器や消火栓の設置場所を確認しましょう。

また消火器が避難通路をふさいでいないかなど、正しい設置場所かの確認も必要です。

